



私立大学図書館協会東地区部会研究部
分類研究分科会

NDCをもっとよくするために

分類研究分科会
代表 藤倉恵一
(文教大学越谷図書館)



本日の内容

- 第一部 活動報告
 - 分類研究分科会の基本テーマおよび今期の活動
 - 特別事業
- 第二部 分類研究分科会60周年記念事業
 - 第101回全国図書館大会第17分科会共催
 - その他の記念事業
- 第三部 研究報告
 - 10版で実現した提言
 - 実現しなかった提言



私立大学図書館協会東地区部会研究部
分類研究分科会

第一部 活動報告

分科会の基本テーマ

- 特定の図書分類法に限らず，件名標目，シソーラス，インデクシング理論など広義の分類法の理論的研究

- 「分類を研究する」基本姿勢

実務を優先し理論を軽視する姿勢が実は業務がうまくいかない元凶でないか？（中略）基礎を固めない実務はすぐ行き詰る。

－田窪直規（近畿大学教授）

J. Mills著，吉田暁史・田窪直規ほか著「資料分類法の基礎理論」序論より

知識の組織化（Knowledge Organization）は図書館の基礎である

今期の基本テーマ

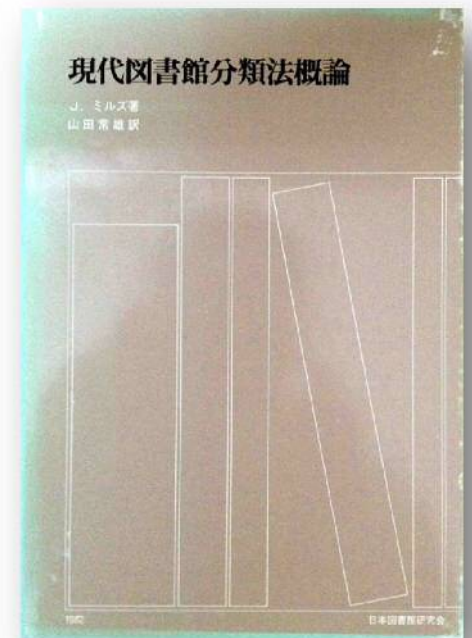
- 「日本十進分類法新訂10版の「つかい方」をさぐる」
 - （当初）10版の新コンテンツ「NDCの使用方法」の評価・検証
 - 10版の実際の刊行・流通が2015年1月下旬となった
 - 2014年に課題としていた基礎文献精読に時間をかけた
 - 実際の10版検討は2015年夏期に集中
 - 過去の提言の効果検証に課題を絞り込んだ（図書館大会）

今期の活動

- 2014年4月～2015年4月 基礎研究
ミルズ「現代図書館分類法概論」精読
- 2015年5月～2015年11月 NDC10版の検討・検証
これまでの意見書効果の検証
- 2016年1月～3月 研究の総括
意見書のまとめと提出

今期の活動：基礎研究

- 2014年4月～2015年4月 基礎研究
ミルズ著；山田常雄訳「現代図書館分類法概論」1982
分類法の基礎から1960年当時の世界各国の諸分類法の
利点・欠点に至るまで詳細な解説



今期の活動：NDC10版検証

- 2015年5月～2015年11月 NDC10版の検討・検証
- ① 那須雅熙「『日本十進分類法（NDC）新訂10版』の刊行によせて」『図書館雑誌』109(2), 96-97
- ② 藤倉恵一「『日本十進分類法（NDC）』新訂10版のあとさき」現代の図書館53(1), 39-46
- ③ 藤倉恵一「日本十進分類法新訂10版を概観する」大学図書館問題研究会誌40
- ④ 米谷優子, 川瀬綾子, 北克一「日本十進分類法新訂10版試案の検討」情報学11(1), 44-50
- ⑤ 大曲俊雄「NDC10版の変わったところ」（ごぞんじですか?）『専門図書館』272, 32-36
- ⑥ 高橋良平「『日本十進分類法』新訂10版の概要」『カレントアウェアネス』324, 11-14

今期の活動：研究の総括

- 2016年1月～3月

研究の総括

日本図書館協会分類委員会への意見書提出
60周年記念論集に向けた近年の研究総括
会員各個人の問題意識の再確認

組織概要

- 会員 7名（うちML会員2名，個人会員2名）
- 月例会 10回／年（8月・1月休会）
- 夏期研究合宿
 - 2014年度 ホテル四季彩（神奈川県湯河原町）
テーマ「主題組織化の現状を把握する」
 - 2015年度 高尾の森わくわくビレッジ（東京都八王子市）
テーマ「日本十進分類法新訂10版の検証」

今期の特別活動

- TP&Dフォーラム（整理技術・情報管理等研究集会）共催
 - 2014年9月5日～6日（横浜） 5名参加
 - 2015年8月29日～30日（浜松） 5名参加
- 第101回全国図書館大会（東京大会）での分科会開催
 - 分科会設立60周年記念事業の一環として
- 日本図書館協会分類委員会に意見書提出（1～2月予定）
 - 分科会の成果をNDC改善につなげる道筋



私立大学図書館協会東地区部会研究部
分類研究分科会

第二部 分類研究分科会設立60周年記念事業

分類研究分科会の設立

- 1954年 関東部会研究会（現在の東地区部会研究部） 成立
 - 大学図書館の充実発展に必要な一切の研究を行い、図書館員としての責務を完遂すると共に広く文化の進展に寄与する
- 1955年10月 研究部常任幹事会「研究分科会」設置承認
 - 17の分科会設置が申請され、そのうち7分科会が設置
「分類」「目録」「図書館のPR」「書誌学」「閲覧参考」「逐次刊行物」「視聴覚資料」
- 1955年12月7日 最初の分科会として設置認可
 - 世話人・道村晃氏（立教大学）

分科会設立60周年記念事業

- 全国図書館大会（東京大会）第17分科会
 - 2015年10月16日；後述
- 60周年記念祝賀会
 - 2015年10月16日；OB・来賓を交えて開催
- 60周年記念誌（仮）
 - 今年度末刊行予定；本発表内容を含めた近年の研究総括

第101回全国図書館大会

- 2015年10月15～16日 国立オリンピック記念青少年総合センター
 - 16日午前 第16分科会 「図書館と分類法1：NDC10版から拡がる① 改訂ポイントと展望」（JLA分類委員会主催）
 - 分類委員長報告
 - 国立国会図書館，図書館流通センター，東京都立中央図書館の10版対応予定や展望の報告
 - 現在分類委員会と国立国会図書館とで共同研究されているNDC-LD（NDCのLinked Data化）について事業概要の報告
 - 16日午後 第17分科会 「**図書館と分類法2：NDC10版から拡がる② 図書館分類の地平**」（分類研究分科会と分類委員会共催）

第17分科会 図書館と分類法2

- 基調報告
 - 藤倉恵一「NDC10版への提言 分類研究分科会活動報告」
- パネルディスカッション
 - 松井純子（日本図書館研究会情報組織化研究グループ世話人）
 - 鈴木 学（分類研究分科会会員）
 - 中井万知子（日本図書館協会分類委員会委員長）
 - 橋詰秋子（NDC-LD共同研究作業チーム）
（コーディネーター）
 - 小林康隆（元分類研究分科会代表；分類委員会委員）

第17分科会 図書館と分類法2

- 分科会当日の様子は
『図書館雑誌』1月号の大会速報
『大会記録集』に掲載予定



私立大学図書館協会東地区部会研究部
分類研究分科会

第三部 研究発表

これまでの研究（2007年度以前）

- NDC9版の時代の提言
 - 説明会の開催時の代表質問（分科会ほか研究団体）
 - 日本図書館研究会整理技術研究グループによる批判
 - 10版試案に対して（いまの分類研究分科会の役割）
 - 試案説明会への出席
 - 公的な場（研究分科会報告大会）で批評の発表
 - 研究発表にもとづく「意見書」の提出
- 改訂支援

これまでの研究（2008～2013年度）

- 研究の内容
 - 10版改訂試案の概要の検討
 - 改訂試案の効果測定
 - 改訂によって、既存の出版物がどの程度分類変更を要するか・適切に細分されたか
 - NDC全体で改善が必要と思われる点の抽出
 - 検討から見えてきた、NDC全体の問題点

詳しくは分科会ホームページ，協会報参照

分類委員会への「意見書」提出

- 第1次意見書 2007年1月20日付
- 第2次意見書 2010年1月21日付（本論）
3月31日付（各類試案）
- 第3次意見書 2012年2月1日付
- 第4次意見書 2014年2月1日付
(ここまでがNDC10版刊行前のもの)
(概略は配付資料でご確認ください)
- 第5次意見書 2016年1～2月予定
(今期研究を受けてのもの)

意見書の効果検証

- 10版で改善された点
 - 1. 冊子構成の変更 (意見書3-1, 1-4)
 - 2. 「解説」の再構成 (意見書1-6, 3-2ほか)
 - 3. 注記の整理 (意見書2-4)
 - 4. 相関索引の充実 (意見書1-5, 2-2)
- 残された課題と解決に向けて
- 11版またはそれ以降に向けて残された課題

効果1. 冊子構成の変更

問題点の提起（意見書3-1, 1-4）

- 9版では本表と補助表が別冊であり，実務作業者があまり顧みない補助表を**本表と同一冊子**内に収録し，参照を容易にした
- 9版では固有補助表は細目表（本表）の当該箇所にしか存在せず，実務上軽視されがちである
固有補助表を**一般補助表に続けて再録**し，軽視されがちだった固有補助表を強調した

9版から10版への変更

9版

- 本表編
 - 解説（付・各類概説）
 - 本表
- 一般補助表・相関索引編
 - 一般補助表
 - 相関索引



10版

- 第1分冊 本表・補助表編
 - 序説
 - 各類概説
 - 本表
 - 補助表
(一般補助表／固有補助表)
- 第2分冊 相関索引・使用法編
 - 相関索引
 - NDCの使用法
 - 用語解説
 - 事項索引

2. 「解説」の再構成

問題点の提起（意見書3-2,3-5,1-6など）

- 9版で「解説」が設けられたが、通読・精読すると内容がIntroductionとManualが混在している
 - 10版では「**序説**」「**使用法**」とに分け、かつ使用法も一般分類規程と各図書館での適用に整理された
- 9版「解説」では重要な語や定義が頻出する割に、それを再確認する手段がない
 - 「**事項索引**」が新設されて出現位置を確認することができるようになり、重要語は「**用語解説**」で定義を概説、かつ「序説」「使用法」にはそれぞれ目次が設けられた

問題点の提起（意見書3-5）

- 9版で「解説」の付録として扱われている「各類概説」は類ごとに精粗・範囲がまちまちで、一部を除き効果がほとんどない
10版では各執筆者に加えて全体調整が入り、内容・分量が均一化し、NDCでは「序説」に続く**独立したコンテンツ**になった

9版から10版への変更

9版

- 本表編
 - 解説（付・各類概説）
 - 本表
- 一般補助表・相関索引編
 - 一般補助表
 - 相関索引



10版

- 第1分冊 本表・補助表編
 - 序説
 - 各類概説
 - 本表
 - 補助表
(一般補助表／固有補助表)
- 第2分冊 相関索引・使用法編
 - 相関索引
 - NDCの使用法
 - 用語解説
 - 事項索引

3. 注記の整理

問題点の提起（意見書3-1, 1-4）と変更

- 9版以前は、注記の定義や文体、掲載順が必ずしも一貫していない（特に類によって／類の中でも均一でないところもある）

10版では全体調整が入り、文体が均一化した

注記の掲載順序を明確化した

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 細分注記 | 分類項目の細分方法を指示 |
| 2. 限定注記・包含注記 | 当該分類項目に収めるべき事項を指示 |
| 3. 排除注記・分散注記 | 他の分類項目に収めるべき事項を指示 |
| 4. 別法注記 | 別法を指示 |

4. 相関索引の充実

問題点の提起（意見書3-1, 1-4）と変更

- 件名標目等の他の索引語彙を参考にさらなる拡大を
語数の拡大
 - 8版冊子 21,790件（ただしMRDFは30,659件）
 - 9版 29,494件
 - 10版 33,367件（MRDFではさらに増加予定）MRDFでは字体や表記のゆれにも対応予定

意見書の効果検証

- 10版で改善された点
- 残された課題と解決に向けて
 1. 補遺やニューズレター等の発行 (意見書2-1, 4-1)
 2. 部分的完全改訂の可能性 (意見書4-2, 2-6)
- 11版またはそれ以降に向けて残された課題

補遺やニューズレター等の発行

- 新版刊行後の補遺・補訂（正誤表含む）
- 次版改訂方針策定に向け，ユーザーの意見を聞く場（コミュニティ）の必要性
- 分類研究分科会だけでなく過去の委員も必要性を提唱

部分的完全改訂

- 現在の記号体系では限界
 - 明らかに窮屈な箇所
 - 必要性が各界から提唱されている箇所
(007情報学, 490医学など)
 - 初歩的なファセット分析と記号合成手法の導入により, 抜本的な改善が実現できる
- 大規模別法による実験的改訂ができないだろうか

意見書の効果検証

- 10版で改善された点
- 残された課題と解決に向けて
- 11版またはそれ以降に向けて残された課題
 1. 「人」の分類と定義の明確化
(意見書3-3, 2-4, 3-4, 4-1)
 2. 記号法や体系の中～大規模な見直し

「人」の分類と定義の明確化

- 現在のNDCでは「人」を区分原理とするところの定義・区分原理は類ごと・分類項目ごとに異なる

例：

- 児童・青少年に対するサービス015.93
- 児童図書館016.28
- 児童のための教訓159.5
- 児童福祉369.4
- 児童心理371.45
- 児童文学909

など

「人」の区分原理（例）

- 「人」を分類するための区分原理にはこのようなものがある

例：

- 性別
- 年齢・世代
- 国籍・人種
- 疾病・ハンディキャップ

など

「人」の分類と定義の明確化

- 配列順が一貫しない
- 複合主題を分類する際の優先順位の判別が困難
- 助記性に欠ける
- 将来の拡張が困難

- 時代・地域 生まれた時代・場所か／主に活動した時代・場所か
なにをもって主な活動と判断するか
時代や場所がまたがったときの判断

「人」の分類と定義の明確化

- 一般補助表での共通化は可能か
(DDCでは「地域・時代・人」は補助表2としてまとまっている)
- ただし分類実績に相当な影響が生じることは確か

記号法・体系の中～大規模見直し

- 区分枝の限界
 - NDCの（あるいは十進分類法の／列挙型分類法の／書架分類法の）もつ本質的な欠点
 - そろそろ根本的なところから考え直さなくてはならない時期に達しているのではないだろうか
- 「桁が細かい」ことは理由ではない
 - 「書誌分類」としての詳細な記号と「書架分類」としてのラベル印字・排架用の記号は異なる

記号法・体系の中～大規模見直し

- 1876年に誕生したDDCが今日なお事実上の世界標準の地位にあるのは、絶えず「改訂」へのチャレンジを行っているから
- 体系の見直し
 - 15版での大整理
(項目数31,000→4,600, ページ数1,930→670)
 - 16版以降のフェニックス (分野を限定した大規模改訂)
 - ファセット理論など, 他の分類法の長所を導入する工夫

今後の課題

- 10版各類・各項目の問題点整理
- 全体的な課題の再整理・新規抽出
- NDCの「手引き（仮称）」刊行後の評価

- 10版が刊行されても、分類研究分科会はNDCへの批評をとめることではない
（NDCだけを対象にするわけではない）



私立大学図書館協会東地区部会研究部
分類研究分科会

次期テーマ

明日も分類を考えよう

これからの図書館に必要なこと

多数のご参加お待ちしております